巻　頭　言

コラボレーション

Collaboration

常務取締役
宮脇　修二
S. MIYAWAKI

Ｈ社製内径研削盤が稼動できない！

寸法異常が，数サイクルに１回発生する．このままでは機械を稼動させる訳にはいかない…….そこで，電気回路を現地の電気系技術者と追いかけた．しかし技術者は，“回路に問題はない．油圧回路に問題があるのでは？”と他の仕事に戻ってしまった．その後も私は油圧回路を点検するが，異常は見つからない．再度機械の稼動条件を思考する．どうも納得がいかず自分で電気図面を取り出し回路を調べた．技術者を呼んで，再度自分が思考した経過を説明し，電気回路を一緒に追いかけ，やっと一枚の回路基板の一つの素子に辿りついた．

これは25年前の海外現法(アメリカ工場)での現地技術者との**共同作業**の思い出である．

１．レベルアップ

グローバルな競争が一層厳しさを増す中で当社が“常に成長し続ける企業”であるためには，技術力の向上，人材の育成・成長なしでは語れない．Koyoの技術者が今後ともこの厳しい環境の中で成長し続け，「会社のビジョン」の実現に貢献してもらいたいと願っている．

冒頭のような問題を当時二日がかりで解決したが，技術力が飛躍的に進歩した今日では，30分もあれば解決できるようになった．個人個人は，世の中の技術向上，本人自身の研鑽と努力を基に会社組織の目標に対し，テーマを設定し，遂行，達成していくなかで，成長していくと考えている．

今はさらに相互理解のもとにお互いの最高の努力をもってコラボレートすることで成長し，さらには成果を求めることが大事になっている．

２．コラボレーション

個人あるいは集団の成長だけでは，本当の成果にはなかなか結びつかない事が多い．先に述べた電気図面についていうと設計者はその意図することを図面に表しており，使う側は少なくともその意図することを理解しなければならない．その上で使う側がもっと使い勝手の良い要求や提案を出せば，より良い設備に進化(改良)していくことができる．

生産現場，技術，生産技術，生産管理……どの組織集団間であっても同様のことが言える．最近では課題，研究項目……など各部門が取り組んでいるアイテムの〔見える化〕が展開されてきているが，まだまだ我々はこういうことをしていますといった〔見て下さい〕の域を抜けきらないものも多い．さらに理解しあって本当に一丸となって実行しているかというと，まだまだ課題も多い．

国内外を問わず部門間がコラボレートすることで，お互いの課題解決に向けた遂行能力も向上し，成果も確実に得られる．加えてそこに働く個人も成長していくということを念頭に，今後はこれまで培ってきた経験を活かし“ＧＬＯＢＡＬ COLLABORATION”を推進し，若手技術者の育成に寄与したい．